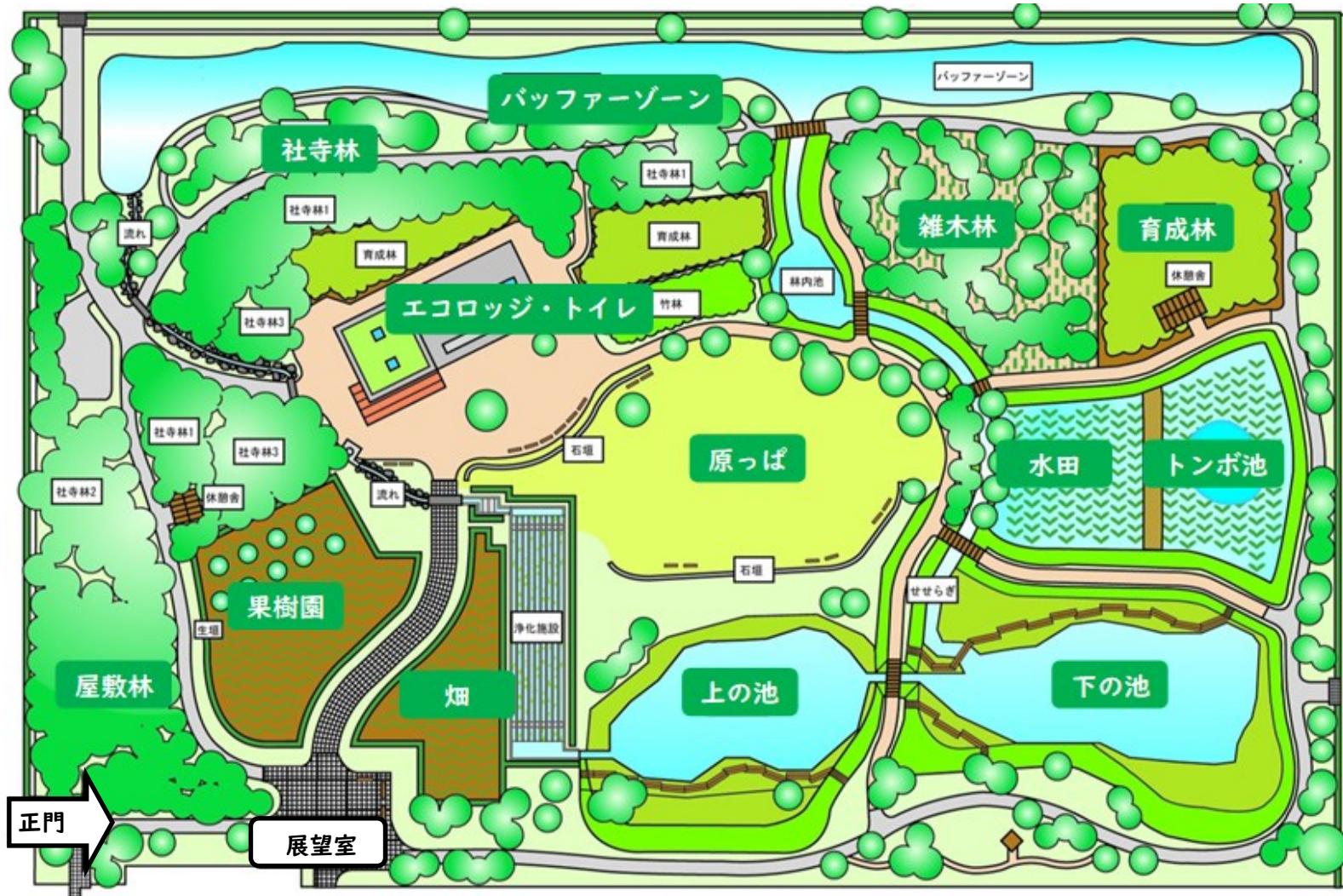


生態園マップ～2025冬編～

きせつ <季節のできごと>

ふゆ せいたいえん
冬になると、生態園にはたくさんのカルガモがやってきます。下の池やバッファーゾーンなどで観察することができます。また、時々園路
さんぽ いけ
を散歩しています。じっくり観察すると、マガモがまぎれています。羽の色や模様を見比べるのも楽しいですよ。静かな池に
かんさつ はね いろ もよう みくら たの しづ いけ
う すがた ふゆ けしき いろどり そ
浮かぶカモたちの姿は、冬の景色に彩を添えてくれます。



カルガモ



ふゆ いちばんおお み
冬になると、一番多く見かけ
るカモです。大きさは50～
60cmです。雌雄同色の
ぜんしんかっしょく しろ かお
全身褐色で、白っぽい顔を
くろ して
くら しています。くちばしは黒
さき きいろ め ほお ぶぶん
く、先は黄色。目と頬の部分
くろ せん とくちょう
に黒い線があるのも特徴で
あし いろ みずべ
す。脚はオレンジ色で、水辺
ある すがた かわい
を歩く姿がとても可愛いです。
ざっしょくせい みずくさ くさ
す。雑食性で水草や草の
は しゅし こんちゅう
葉、種子をメインに昆虫や
こざかな ちい こうかくるい
小魚、小さな甲殻類など
どうぶつせい もの た
動物性の物も食べます。



CESSチャンネル (Youtube)

生態園についても配信中

ハンノキ

ハンノキは湿地や湿原などで生育する、高さ10~20mになる落葉高木です。生態園には、ハンノキがたくさん植えられています。これは、埼玉県の蝶である「ミドリシジミ」をよぶためです。ミドリシジミの幼虫は、ハンノキの葉を食べて成長します。ハンノキは、関東地方では田んぼの境を示す目印や、収穫後のイネを干すはざ掛け用として植えられていましたが、水田や沼地が減ったことで、ハンノキも減り、ミドリシジミの数も少なくなってしまいました。

ハンノキは、寒い冬の間に花を咲かせます。だらりとさがった雄花の花粉が雌花に運ばれ、次の年の秋に小さい松ぼっくりのような実(果穂)ができ、種を落とします。

通称「ゼフィルス(ギリシャ神話の西風の神に由来)」と名付けられた蝶のグループのミドリシジミ。梅雨のころに見られる美しい蝶です。長年の努力が実ったのか、

2020年から生態園でも見かけるようになりました。



ハンノキの雄花

初夏から夏の頃



秋



雌雄同株。雌花は雄花
のすぐ下に付き、早春
に開花

冬



12~1月頃
果穂は木質化して翌年
まで残る



1月下旬~2月頃
枝の先端に下垂する
雄花



埼玉県の蝶「ミドリシジミ」



Instagram

#昆虫図鑑、#野鳥図鑑#花
と植物図鑑etc.. CESS研究
員等が撮影した美しい写真
をご覧ください。



冬の鳥

生態園にはたくさんの鳥がやってきます。鳴き声が聴こえたら、お空や、樹木を見渡してみませんか。冬の時期にしか見ること

のできない鳥達に、会えるかもしれません。

シロハラ



ツグミの仲間で、お腹の部分が白く、グレーがかかった茶色い鳥です。実は沢山いますが、木の茂みが好きで、なかなか人前にはでできません。遠くから、双眼鏡で観察するのがおススメです。



ツグミ

大きさ24cmほどのやや大きめな冬鳥です。茶色と黒、クリーム色の複雑な模様をしています。両足でぴょこんぴょこんと飛び跳ねて歩き回り、可愛らしいです。



ジョウビタキ

大きさは15cmほどの小さな冬鳥です。雄は頭部が灰色で、顔は黒く羽には白い斑点があり、下腹部から尾は鮮やかな橙色です。メスは全体的に淡い茶色で、尾のみ橙色です。